



市民病院の 診療科のご案内①

津島市民病院は、海部医療圏における二次救急医療機関として、地域の救急医療を担い、市民の皆さんに安心・信頼の医療を提供しています。

地域の開業医の先生方と連携して、患者さんの診察や検査等を行っています。入院や検査など、高度な医療が必要となった際には、ぜひ市民病院をご利用ください。

なお、今後順次各診療科をご案内しますので、参考にしてください。

問合 市民病院 ☎28-5151

久富充郎
副院長兼
消化器内科統括部長



消化器内科

消化器内科では、胃力メラ・大腸内視鏡・腹部超音波などで診断し、内視鏡を用いて、様々な病気に對して治療を行います。

胃や大腸のポリープの切除や、早期がんに対しては粘膜切除を行います。総胆管結石は内視鏡を用いて結石を除去します。

そして手術適応のない胃がんや膵臓がんなどには、抗がん剤による化学療法やステント留置術を行っています。

さらにB型肝炎・C型肝炎など肝臓疾患、膵炎などの膵疾患の検査・治療も行います。



循環器内科

狭心症・心筋梗塞・心不全・不整脈・高血圧・高脂血症などの診断・治療を行っています。

外来では、食事療法を含めた生活指導に重点をおき、必要な検査は早めに、患者さんの予定を汲みつつ施行します。

患者さんの治療に際しては、病状、年齢、生活背景などを十分考慮、検討し、一番適切と思われる薬物療法、侵襲的治療（経皮的冠動脈形成術、バイパス手術など、治療施設も含めて）を決定しています。

入院患者さんの早期退院を目指しますが、患者さんの状態によってはリハビリを行い入院前の体力の回復を目指します。

大野淳
内科部長兼
循環器内科部長



呼吸器内科

呼吸器内科が担当する疾患としては、肺の腫瘍である肺がん、肺炎などの感染症、喫煙が原因となる慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息といったアレルギー性の疾患などがあります。

検査としては、通常のX線・CT・MRIなどの他に、気管支内視鏡検査があり、昨年からは超音波ガイド下での気管支内視鏡検査も可能になりました。肺がんにおける近年の遺伝子レベルでの進歩は目覚ましく、多くの分子標的薬が実際に使われるようになってきています。そのような進歩に遅れることなく、最適な医療を常に患者さんに提供できるように努めていきます。

中尾彰宏
副院長兼
統括内科部長





内分泌内科

糖尿病や、甲状腺、脳下垂体、副腎などのホルモンに関連する疾患の診断や治療を行っています。バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍、副甲状腺機能亢進症、先端巨大症、性腺機能低下症、副腎皮質機能低下症、クッシング症候群、褐色細胞腫、原発性アルドステロン症などの内分泌疾患を脳神経外科、放射線科・外科と連携しながら診療を行っています。

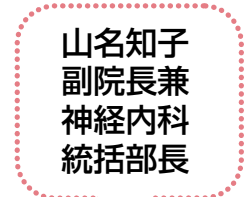


村岡由佳
内分泌内科
医長



神経内科

神経内科は脳や脊髄、神経、筋肉の病気を診る内科です。体を動かしたり、感じたりする事や、考えたり覚えたりすることが上手にできなくなったりときに



山名知子
副院長兼
神経内科
統括部長



このような病気を疑います。症状としてはしびれやめまい、うまく力が入らない、歩きにくい、ふらつく、つぼむ、ひきつけ、むせ、しゃべりにくい、ものが二重に見える、頭痛、勝手に手足や体が動いてしまう、物忘れ、意識障害などたくさんあります。

神経内科でどのような病気か診断し、骨や関節の病気がしびれや麻痺の原因なら整形外科に、手術などが必要ならば脳神経外科に、精神的なものは精神科にご紹介します。また、眼科や耳鼻科の病気の場合もあります。

医療施設は、CT、MRI、Ri、脳血管撮影、頸動脈超音波、脳波、筋電図、神経・筋生検、重心動揺計などの豊富な機器を備えています。これらを駆使した上で、脳神経外科、リハビリテーション科など他科との協力のもと、インフォーム・コンセントを重視して患者中心の総合的な診療を心がけています。



腎臓内科

腎臓内科では、次のような場合に受診をおすすめしています。①検診で蛋白尿、蛋白尿と血尿、腎臓機能障害を指摘された。②糖尿病や高血圧などで腎臓機能障害が合併している。③多発性嚢胞腎を指摘された。④家族が透析療法を受けており、腎臓機能障害を指摘された。⑤両方の足のむくみが出てきた。

腎臓機能障害がかなり進行している方の外来治療にも対応し、血液透析中の患者さんで、当院で対応できる病気に対して入院が必要な場合、入院中の血液透析治療に対応しています。慢性糸球体腎炎(蛋白尿・血尿がある)やネフローゼ症候群(蛋白尿・下肢浮腫などがある)などの方では腎生検を行っています。

また、慢性腎不全の教育入院や血液透析導入や透析導入指導や血液透析に



山本順一郎
副診療局長兼
腎臓内科部長



小児科

必要な内シヤントの作製も行っています。腎臓機能障害など腎臓病でお困りのことがあれば、受診してください。

肺炎や喘息など小児に多くみられる疾患について、標準的治療を柱に患児にとつてより負担が少なく、より安全な医療を提供すべく、科内全体で検討を行いながら治療を行っています。

また、専門的な医療の提供のため、てんかん等の小児神経疾患に関しては、毎週火曜日に神経外来を開設しています。さらに月1〜2回各専門医を外から招き専門外来を開設しています。

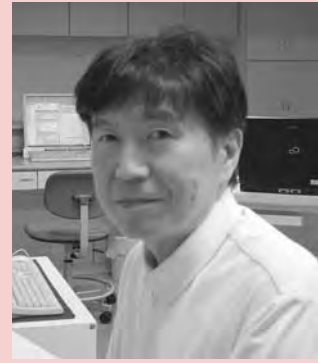
さらに小児科は急な発熱なども多く、それらの急性疾患にいつでも適切に対応できるよう診療体制を整えています。



高田弘幸
小児科部長

私のカルテ

No. 355

津島市民病院
緩和ケア内科
部長
高塚直能

地域に広げていきたい緩和ケア

緩和ケアとは？

その名のとおり、がんなどに伴う苦痛症状の緩和を目的としたケアのことです。患者さんの抱える苦痛には、痛みなどの身体的な苦痛だけではなく、抑うつなどの精神的な苦痛や療養環境の不備などの社会的な苦痛なども含まれます。そのため、医師（精神科医師も含む）、看護師、薬剤師、リハビリ療法士、栄養士、ケースワーカーなど様々な職種のスタッフが協力して当たります。

緩和ケアの対象者は？

「苦痛をかかえるすべての患者さんです」と言いたいところですが、今のところ、苦痛症状を抱えるがんの患者さんが主体です。緩和ケアは、がんと診断された時から始まると言われています。がん治療を担当される科においてもがんと闘う治療を進めると同時に、早期から緩和ケアを受けることが出来るようになってきています。当科で対応するケースは、苦痛の緩和に難渋している患者さんが多いですが、可能な限り症状緩和を図り、がんを抱えながらも患者さんが望まれる生活を送れるようサポートしていきます。

緩和ケア病棟ってどんなところ？

症状緩和を目的にご利用いただく入院施設です。今の制度では、緩和ケア病棟をご利用いただける方は症状緩和を必要とするがんの患者さんにほぼ限られています。当院の緩和ケア病棟はすべて個室になっており、入院中は、化学療法などがんに対する積極的な治療は行えませんが、症状緩和につながる治療は積極的に進め、患者さんの生活を支えています。

緩和ケア病棟やホスピスと聞くと、がんの末期で最期を迎えるところと思われる方もみえるかもしれませんが。しかしながら、最近では、症状緩和を目的とした短期入院やご家庭での介護者に休息をとっていただくことを目的としたレスパイト入院も増えています。また、可能な限り自宅で過ごしたいという患者さんの意向にも応えるべく、ご自宅への退院も積極的に進めています。そのため、地域の訪問診療や訪問看護を担う施設などとの連携を深め、地域全体で緩和ケア（地域包括緩和ケア）を提供できるよう体制づくりを進めているところ です。

緩和ケア病棟のご利用にあたりましては、現在、がん治療を担当されている主治医の先生を通して当科に紹介受診いただき、利用申し込みをしていただく必要があります。ある程度時間もかかりますので、余裕をもって申し込まれることをお勧めします。

がんの痛みに麻薬を使うと聞いたけど、大丈夫なの？

多くの場合、がんに伴って痛みが生じます。モルヒネなどの麻薬系鎮痛薬は強い鎮痛作用を持っており、がんによる強い痛みには必ずと言っていいほど使われます。麻薬と聞くと依存症を心配されるかもしれませんが、近年では安全な投与方法も確立され、慢性的な痛みがある方が使用する限りにおいては、依存性を生じることなく、うまく痛みを抑えられることがわかっています。実際、麻薬の使用に躊躇されていた方の多くが、こんなに効くならもっと早く使えばよかったと言われます。ただし、嘔気・嘔吐や便秘、傾眠などの副作用が出ることはありますので、それぞれに対応しつつ、投与を進めていくことになります。

がんを含めどんな病気でも、それが消えてなくなることが理想ですが、現状それが叶わない病気があることも事実です。その際、いかに病気と付き合うかということも考えなければなりません。当科では、症状緩和を通して、皆さんによりよく生きていただけるよう、内容を充実させていきたいと思っております。今後とも宜しくお願いいたします。

